

介護・医療連携推進会議 会議議事録

○開催日時 8月24日(月)14:00～15:30

○場所 RIVERLD 恵比寿A

○出席者氏名

藤井一成 CM（渋谷区かなみの杜・渋谷 居宅介護支援事務所 管理者）

梅村亜紀 NS（ウィル訪問看護ステーション渋谷 代表取締役・管理者）

土屋晶 NS（Recovery International 株式会社 管理者・エリアマネージャー）

和田篤昌所長、鈴木陸管理者、樋口達也計画作成責任者（エイプレイス渋谷）

○司会 和田篤昌所長

1. 開会の挨拶（和田）

- 本会議は、介護医療連携推進会議であり、運営の透明性向上とサービス品質確保を目的とする。
- エイプレイス渋谷は2026年2月に開設。法人自体は2012年設立で10年以上定期巡回サービスに携わっているが、渋谷区内では同サービスの認知度が低いと感じており、このサービスを活用して高齢者が安心して自宅生活できる地域づくりに貢献したいとの意向が示された。
- 他社と介護・医療連携推進会議を6月に実施したが、区の南側をカバーしていなかったため、本会議は広尾など区の南側エリアに限定して開催された経緯がある。
（追記：例外として弊社との取引がある看護事業所にはお声がけした）

2. 出席者自己紹介 省略（上に記載）

3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護についての説明（樋口）

- 定時展開随時対応型訪問介護看護（24時間型）：
 - 介護と看護が協働し、24時間365日対応する在宅サービス。要介護認定者が対象（要支援は不可）。
 - サービスは「定期巡回」「随時対応」「随時訪問」「訪問看護」の4つで構成。
 - 料金は要介護度に応じた月額定額の包括報酬。
 - ヘルパーとナースの連携には、窓口が一つの「一体型」と、各事業所の得意分野を活かす「連携型」があり、エイプレイスは連携型。
- 夜間対応型の定期巡回サービス：
 - 令和6年4月に創設された新サービス。夜間帯（18時～8時）に提供。
 - 料金は基本料金に訪問ごとの単位が加算される積み上げ式。

- 日中の訪問介護や訪問看護との併用が可能。
- 厚労省が 2025 年 11 月に「夜間対応型訪問介護」を廃止し、定期巡回サービスに統合するため、今後の需要増が見込まれる。
- **補足と注意点:**
 - 通常の訪問介護とは併用不可だが、安否確認のみなど短時間ケアを柔軟に組める。訪問介護の「2 時間ルール」も適用されない。
 - 小規模多機能型居宅介護とは異なり、既存のケアマネージャーやデイサービスとの関係を継続できる。
 - 提供内容はケアマネージャーや看護師の意見を参考に決定され、無制限のサービスではない。

4. 会社・事業所紹介と実績報告（鈴木、樋口）

- **運営法人:** 株式会社エイプレイス（ホームネットグループ）。2012 年設立。東京、埼玉、神奈川に拠点を展開。
- **エイプレイス渋谷事業所:**
 - 渋谷区神宮前 2 丁目に所在し、区内全域を訪問可能。6 つの看護事業所と連携。
 - 特徴は、地域の訪問介護事業所と連携する「チーム型定期巡回」や ICT 活用。
- **実績:**
 - 利用者数は 5 名で横ばい。要介護度 2～5 まで幅広く、特に高要介護度の利用が多い。
 - ケア回数や時間は個々のアセスメントに基づき、必要分を提供できている。
 - 随時コールに対し、電話応対で解決できるケースが多く、訪問は必要な場合に限定して適切に対応できている。
- **今後の取り組み**
 - 多職種間の連絡網を強化し、地域社会への参加を促進する。
 - ケアプランデータ連携システムを近日中に導入予定。
 - ICT 推進事業に参加し、他事業所での導入事例を参考に ICT 機器の導入を検討。
 - 在宅看取り支援のさらなる充実を目指す。

5. 活動評価および意見交換・協議

【ディスカッションテーマ】

Q：エイプレイス渋谷、ひいては定期巡回が地域に果たせる（果たしてほしい）役割について。

Q：渋谷区内で定期巡回サービスの認知度を上げるには。

5.1. 認知度と理解度の不足

- 定期巡回サービスは2012年に開始されたが、事業所数が伸び悩み、特に渋谷区ではサービス自体が知られていない。
- ケアマネージャー自身もサービスを分かりづらいついており、「使い放題」「サブスク」といった言葉が誤解を生んでいる。
- 事業所の入れ替わりが激しい地域では「どうせすぐ潰れる」という不信感を持たれがちで、事業の継続性が信頼獲得の鍵となる。

5.2. 普及に向けた提案と議論

- **勉強会の実施:**
 - ケアマネージャーや訪問看護事業所への認知度向上が不可欠。
 - 地域包括支援センター経由でトップダウン的に周知すると参加が増えやすいとの意見が出された。
 - 渋谷区ではケアマネ協議会、訪問看護連絡会、医師会などが合同で勉強会を企画しており、活用できる可能性がある。
- **連携モデルの検討:**
 - 訪問看護との連携、特に医療保険を利用する難病患者のケースで有効性が高いが、利点が知られていない。
- **エリア特性:**
 - 神宮エリアでは病院での看取りを望む傾向が強く、施設入所率も高いなど、地域差を考慮したアプローチが必要。

6. 閉会の挨拶（鈴木）

- 貴重な意見・助言を活かし、今後も医療と介護の連携を大切にしながら、地域の皆様に信頼していただけるような事業所を目指す。引き続きの連携を依頼する。